

令和3年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第2回コーディネーター部会会議 記録

日時：令和4年1月24日（月）

午後1時30分～午後3時20分

場所：刈谷市役所 804 会議室／オンライン併催

出席者（久保田委員、塚本委員、市役所職員以外はオンライン出席）

| 団体名・役職等 | 氏名 |
|----------------|---------|
| 愛知教育大学 教授 | 大村 恵 |
| 一般公募 | 及川 裕太 |
| 一般公募 | 大野 裕史 |
| 刈谷市自治連合会 | 尾島 輝雄 |
| 文化工房かりや 代表 | 久保田 富士子 |
| 株式会社おたより 代表取締役 | 塚本 裕晶 |

欠席者

| | |
|-------------------|--------|
| 刈谷市ボランティア連絡協議会 会長 | 富田 宜弘 |
| 刈谷市小中学校長会 | 澤田 佳予子 |

事務局

| 所 属 | 補 職 名 | 氏 名 |
|------------------|--------------|--------|
| 市民活動部市民協働課 | 協働推進監兼市民協働課長 | 石川 領子 |
| 市民活動部市民協働課 | 課長補佐兼地域支援係長 | 石川 孝志 |
| 市民活動部市民協働課 | 協働推進係長 | 小原 崇照 |
| 市民活動部市民協働課 | 主事 | 西村 亜津 |
| NPO法人ボランタリーネイバース | 副理事長・調査研究部長 | 三島 知斗世 |
| NPO法人ボランタリーネイバース | 理事・事務局長 | 遠山 涼子 |

1 開会・あいさつ

・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）

2 議題

(1) 部会長あいさつ

部会長より挨拶が行われた。

- ・ウィズコロナの生活様式に慣れてきた反面、見過ごされていく矛盾や影響も大きくなっている。SDGsで言われる「誰一人取り残さない」ことは、地域の実践においても問われている。
- ・本日の議題はコーディネーターの活動と今後のネットワーク化についてである。大切な論点であるので、忌憚ないご意見をいただきたい。

(2) 推進委員会について

ア 基本方針

■【資料1】を提示し、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）の活動実績について事務局が説明

（令和3年度の活動実績）

（1）派遣：7件／のべ19人

- ・住民会議のファシリテーション（高須地区：事前打合せ・当日の計2回）、市職員研修グループワークへの参加、コーディネーターへのヒアリング（令和3年度新設）
- ・他団体からの依頼をうけて、話し合いの場のファシリテーション、地区への取材活動を行った。
- ・令和元年度13件、令和2年度7件とコロナによる影響が生じた令和2年度より減少傾向にある。
- ・新たな動きとして、住民会議の企画書作成にあたって、まちコ2名と世話人守随さんとがLINEにより活発な意見交換を重ねて作成した手法、市が第一義的窓口にならない（まちコが活動に携わっている経緯で）「刈谷駅周辺連絡協議会」から依頼を受けた。

（2）まちコゼミ：計9回／のべ42人参加（7月より開始）

- ・守随ゼミ（ファシリテーション）、大野ゼミ（オンライン支援）、塚本ゼミ（広報）
- ・大野ゼミはこれまでの相談会から移行する形で開催数が多かったが、今後は隔月開催とする。

（3）交流会：1回／まちコ6人と世話人3人参加

- ・11月27日開催。まちコゼミの活動報告、まちコ活動の収穫祭として日ごろの活動を共有した他、まちココの最終検討を行い、改善案を確認した。デザインの修正を経て完成する。

（4）つなぎの学び舎

- ・「実践編 みんなの対話お助け隊コース」10月30日最終回。講座を通してまとめた「私が考える話し合いの場」を各自発表し、アドバイスを伝えあった。9人の受講生全員が修了。
- ・「基礎編」10月9日から開講。全6回中第5回まで終了。9人が受講中。

■質問・意見交換

（住民会議のまちコ活躍の情報を拡げる）

部会長：高須自治会の住民会議のテーマは何であったか。

事務局：「元気な地域応援交付金（以下、元気交付金）」の申請にむけた来年度の取組の意見交換であった。

部会長：高須自治会から派遣の評価は聞いているか。例年声がかかる可能性があるということか。

事務局：意見が対立する場面で、まちコが調整したことに対し、第三者が関わってもらってよかったと聞いた。継続して依頼をいただく可能性はある。

部会長：他の地区でも活用していただけるとよい。自治連合会の会議で活動報告をいただけると、他の自治会から声をかけていただけるかもしれない。大野委員は自治連合会で、ご紹介はお願いできるか。

大野：今年の3月まで自治連合会会長を務める。会議を担当する市民協働課で調整いただければ紹介する。

事務局：元気交付金は、住民会議を開催した上で申請する流れであり、住民会議を開く際はまちコへ依頼をと例年案内している。元気交付金の報告は、自治連合会の勉強会の中で毎年行っているが、今年はコロナのために実施できなかった。住民会議を開く場合はまちコへ依頼するようにと案内できる。3月の会議で報告は予定していないか、4月以降、報告の際に話をできるとよい。

部会長：取り組んだことは、自治連合会全体で共有し、広げていただきたい。

（派遣活動をまちコ同士で共有）

部会長：「刈谷駅周辺連絡協議会」が主催する会のテーブルファシリテーションを行った。市を通した派遣ということか。民間団体か。

事務局：そうである。協議会のメンバーにまちコが参画しており、会合に複数名のテーブルファシリテーターが必要で、依頼を受けた。まちコの皆さんには、本日の資料でもある記録をもって報告した。

（まちコの活動をまちコ同士で共有するしくみを）

大野：公園緑地課から「公園づくり会議」へまちコの派遣を依頼された。12月に開催した。7か所の公園ごとに部会が設けられ、岡さん、山口さん、松浦さんの3人が参加。有償の活動ではないが、まちコの活躍の場であり、実績として加えていただけるとよい。

部会長：派遣実績は、無償の活動も含めて報告があるとよい。活動の集約はどのように行われているか。年間の活動をまちコから報告いただくような仕組みはあるか。

事務局：無償の活動、個人の活動として取り組まれているものは情報がないのが現状。行政が取り組んだもので情報があるものはあるが、民と民の活動は実績情報を積極的に収集していない。

部会長：まちコとして取り組んでいるのか、一個人としてか、線引きが難しい面はあるが、まちコの肩書で取り組んだことは集約しておけるとよい。線引きをどのようにするか、今後検討したい点である。

事務局：まちコ交流会ではまちコ活動の収穫祭を通じて、情報を収集して共有する取り組みをしたい。

部会長：交流会に参加しなかった方は、どのように集めるか。

事務局：まちコ専用のオンライン掲示板「まちコ・ルーム」を設けており、活用して情報を収集していきたい。

→★まちコルームを画面で共有。

（簡素な活動報告の方法）

大野：活動したら、タイトルと内容を1、2行で書けるシンプルな様式を用意すると、書き込みしやすい。

部会長：情報が蓄積されていくしくみをつくっておくことはとてもよい。まちコがどういう活動しているか紹介したり、全体で集約することに取り組んでもらえるとよい。現状だと交流会に参加しない方の状況把握をすることができない。登録しているまちコ全体の取り組みの把握を年度末に行えるとよい。

大野：どういふ方法で活動情報のデータを集めるか、まちコみんなて検討したい。

事務局：塚本ゼミで、まちコの派遣活動以外の活動を共有する活動も行った。収集方法に関し検討を続けたい。

（ゼミの活動報告）

大野：資料1ー2「ゼミ活動の報告」3つのゼミを展開している、守随ゼミではファシリテーションのスキルアップ、大野ゼミはオンラインのスキルアップでzoomを取り上げた。

塚本：広報をテーマに、各まちコの活動をまちコ同士で共有するため「活動レポート」シートを作成して取り組んだ。先ほどの議論のように、もう少し簡単に報告できるものや、まちコ・ルームに写真で報告するなど、交流会に出席していなくても、まちコルームに活動報告が蓄積されていくとよい。レポートの作成が進んでいない状況から、活動レポートをまとめるハードルが高いと受け止めている。

（つなぎの学び舎）

及川：自分実践編を受講し、スポーツ推進を軸に市内を巡るイベントを企画した。まちの防災や歴史文化に関する知識と、まちへの愛着がうまれることを考えた。西部地区の「お宝さがしウォーキング」は取組内容が近く、かりがね地区の方からもお話をいただいたので、両者と話をし、連携して取り組みたい。コロナ禍でのイベント開催は安易に考えていた面があったが、社会情勢も考慮しながら、アフターコロナにむけたイベントの開催に向けて、考え直していきたい。

部会長：商店街の活性化とあるが、防災やまちの歴史の視点も含めているということか。

及川：スポンサーとして商店街を想定した。まちを知ることと、防災につながる取組としたい。

大野：碧南市で「自転車さんぽ」というロゲイニングゲームを開催している。その経験を活かして、「お宝さがしウォーキング」を西部地区で開催した。各地へ広げていきたい。一緒にやりましょう。

及川：個々の商店は集客や利益の面で弱い。ゲームに参加した人が、お土産を買ったりお茶を飲んだりすると、ポイントを加算するような競技性を持たせて、消費につなげたいと考えている。お話を伺いたい。

事務局：基礎編の受講者が「かりがね地区でウォーキングラリーをしたい」と提案があり、西部地区の事例を紹介した。受講生やまちコ間で情報交換しながら活動の輪が広がるとよい。

■【資料2ー1, 2ー2】を提示し、令和3年度以降のコーディネーターのネットワーク化について事務局が説明（資料2ー1／ヒアリング報告）

■スポーツ推進委員

- ・スポーツを通して、人をつなぐ機会作りに取り組むコーディネーター。
- ・主催イベントのほか、地区から依頼を受けてスポーツイベントを運営する。
- ・スポーツに関心のなかった人をイベントへの参加につなげるよう周知の方法をさがることが課題である。

■西部地区

- ・イベントや活動を通して、地区の住民同士をつなぐコーディネーター。
- ・地区組織と公民館組織が連携して「お宝探しウォーキング」「災害時の避難所運営マニュアル」に取り組んだ。
- ・いろいろな人や地区同士をつなげていく上で、まちコと連携した取り組みに期待が寄せられた。

(資料2-2/コーディネーターのネットワーク化にむけた取組案)

1. 「わかまちのつむぎ場」への参加により、団体間交流や団体経由で新たな参加者につなげる。
2. 自治連合会の勉強会で、各地区の活動を報告する「ポスターセッション」を行う。
3. まちコ自身の活動を「まちコの活動レポート」にまとめ、「まちコ・ルーム(まちコ専用ウェブサイト)」で共有することで、まちの課題に複数のまちコが取り組むきっかけとする。

■質問・意見交換

(コーディネーター役を担う人をつなぐ)

部会長：ネットワーク化について、来年度の事業化や政策提言につなげるため、いろいろな意見をいただきたい。提案された資料以外にもご提案をいただきたい。

事務局：実際はまちコ自身で進めたい取組を考える必要があるが、部会のご意見をヒントとしたい。

大野：ヒアリングで「まちコの活動の場を地区に広げてほしい」、「いろいろな人を巻き込んで地区事業を行いたい」と話したのは、地区事業について外部から意見を言ってもらいたいと考え、まちコに入ってもらえる機会をつくった。及川さんからの提案をうけて、まちコが複数の地区で関わることで、地区同士の連携も取り組めるとよい。及川さんの地区と西部地区で取り組みが一つのひな型となり、地区同士の連携が展開していくとよい。

及川：大規模なスポーツイベントでは、参加者がネット上で登録するしくみもある。刈谷と碧南が協働で取り組むのも面白い。可能性のある取組と考えている。

部会長：全国に開かれたイベントにしていく場合、まちの人が実行委員として参加してつくりあげる、まちづくりの要素もある。そうしたことも視野に入れて、まず大野さんと及川さんと、西部とかりがね(一ツ木)地区の協働に取り組んでいただけるとよい。4つ目の提案として受け取った。

(新規参加：若者・学生を巻き込む方策)

及川：ボランティアに参加した愛教大の学生と話をする機会があり、教員になったら忙しくなるが、継続的にできるボランティアが大事と話をした。参加の入り口を軽くできるようなしくみや機会があるとよい。スポーツ推進委員のイベントでは、地域の方が楽しんで参加できるような告知の仕方が大事である。イベント主催する際、配布範囲やちらしの作り方、人が集まりやすいような方法を、若い人から案をうけると若い人が集まることにつながる。

部会長：ボランティア入門や地域活動入門といった入口の部分での広報活動という意図でよろしいか。

事務局：広報ゼミで、若い人の感覚にマッチするような届け方につながる活動は考えられるか。

塚本：愛教大の学生とのネットワークはあるので、学生を集めて情報交換することで得られるものはある。まちコとしての活動が分からないが、大学生に、若者の目線で意見をもらうことはできる。

及川：安城市では、駅前新たに図書館ができ、毎週のように歩行者天国が行われて、集まる人に対して様々な情報発信が取り組まれている。大府市でSDGsに関するイベントが開催されている。刈谷市で駅前などでイベントが開催される機会を活用し、ボランティアに関する情報発信が取り組まれるとよい。

(分野を超えた調整役の必要性)

部会長：市全体として、ボランティアに関する広報は市民協働課の業務か。

事務局：イベントのテーマにより担当の部署が異なるが、市主催ではない活動は「後援」名義をとることで、駅の通路にポスターを設置することはできる。

部会長：市民が社会活動に参加することは多様な分野の活動で共通であるが、庁内ではそれぞれの分野で窓口が分かれていて、全体として責任を持つところがない。コロナ対策においても全庁的連絡会はつくられるが、市民の困りごとを集約する役割がないことは課題として指摘されていた。市民協働課として市民参加を促進するミッションを果たすため、中心にあってもよいのではないか。まちコガ住民と住民をつなぐ役割を果たすとしたら、市民協働課は役所内を調整する役割を担ってもよい。

コーディネーターのネットワーク化は、様々な分野の地域づくりに参加するコーディネーターをつなぐということ。現場では地域のいろんな方がつながり、行政では縦割りをつないでいくことが重要。その役割を市民協働課が担っていくとよい。

(情報発信の方法・機会を広げる)

及 川：市民協働課のSNSの取組はどのような状況か。

事務局：Twitterの公式アカウントを持ち、市の取組を発信している。

及 川：スポーツイベントの開催案内を行っているか、活動内容の報告か。

事務局：市が主催するイベントは、HPだけでなく、LINEなどSNSを活用している。スポーツ推進委員や地域の取組については、行っていない。それぞれの団体による発信が中心である。

及 川：図書館の体験職員に参加した。大人も対象とした内容であったが私以外の参加者は小学生で学校からの案内で参加していた様子だった。市民だよりを見て申し込んだのは私だけ。素敵な活動があるのに、広がっていないことが残念である。魅力的な情報発信ができるとよい。

事務局：広報に関して、ポラセンでは、さまざまな形で情報発信に取り組まれている。ぜひ活用いただきたい。

(ボランティア活動への参加につなげる気軽な機会づくり：活動と人のマッチング)

部会長：ボランティア入門や地域活動入門を刈谷市全体で考える講座が取り組まれてもよい。豊田市では、中学生や高校生を対象としたボランティア講座が行われており、座学だけでなく、ボランティア団体の現場に出かけて活動する取組がある。刈谷市は高校生から地域に関わるような取組があまりない。ボランティアや地域活動の講座に、活動者に活動する場を提供してもらったり、講師として話をしてもらったり、講座を通してネットワーク化をはかることもできる。

関連して、つなぎの学び舎も地域活動に関わる庁内のいろんな部局に関わるような体制を検討する機会としていただきたい。スポーツ推進委員や自治会だけでなく、防災委員やその他地域活動に関わる人たちの学習の場として、もう少し広く網をかけて広がるとよい。

及 川：子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるボランティアに参加した。ちらしを見ておもしろそう、心に伝わるものがあったらボランティアに参加したと聞いた。学生の心が動くような働きかけがあった。学生を対象にする取組はよい。高校生に限定して、地域に対する思いをもってもらう機会も必要だ。

塚 本：富士松中では夏休みにボランティアの募集が行われていた。小学校から大学生までボランティアに関わる機会となる講座があるとよい。団体ではボランティアを求めているが、知りあいの範囲で声をかけつづけている状況にある。

団体が個々に学校に働きかけると対応が難しい面があるだろう。市やポラセンを中心に、ボランティアの担い手を探していることを取りまとめて、活動内容やボランティアが必要な人数を集約して学生を派遣するしくみができるとよい。活動に参加してもらうことで、団体側は広報PRにつながるメリットもある。参加者側は、社会貢献、社会活動、市民参加に目覚めるきっかけになる。

潜在的に活動してみたい人、社会との接点や地域活動、まちづくりに取り組みたいけれどどこにいったらいいかわからない人はいる。市民に気軽に参加してもらってマッチングができるとよい。

さらに深く取り組みたい人がいたら、つなぎの学び舎やまちコなどのプログラムへつなげるとよい。かけはし的な最初のステップにまちコが関わると新しい取組につながる。

(コーディネーターのネットワーク化)

部会長：このテーマについては、ボラセンの方も含めて全体会の場で議論を継続展開していただきたい。

事務局：次回全体会において引き続き議論の場を展開する。

部会長：次年度に議論を引き継ぐことでよろしいか。ヒアリング実施団体を追加した方がよいと考える。

事務局：新たな団体のヒアリングを重ねるより、まちコ同士の情報共有や活動が見える化に取り組む必要があると考える。まちコの中の活動を活発化させ、情報共有をしていくことを検討している。

部会長：まちコを広げることも同時に取り組んでいかなければ、辛くなる面があるのではないか。参加する人を広げることを考えつつ、情報共有や活動の見える化に取り組むとよい。

(コーディネーターのネットワーク化：まちコの活躍につなぐ)

尾 島：重原地区長として、地区としてまちコをどう活用できるか。アフターコロナで活動ができるようになったら、まちコの助言を得て地区の活動が活性化したらよいと感じた。地区だけでやっていくよりも、いろいろな方から助言を得て取り組みればよいと受け止め、気持ちが高まった。

久保田：広報について、自団体でイベントに取り組む際も周知は大変である。イベントごとにアンケートを取っており、市民だよりによる参加が多く一番届いていることが分かった。ちらしづくりは、魅力がないと手に取ってもらえないので、ボラセンの講座に参加してチラシ作りを学んだ。また、若い方の目に留まるために、団体でYoutube 部会をつくり、情報発信して参加につながっている。広報の方法は課題と感じている。

ヒアリング結果について、つむぎ場に参加するだけでなく、まちコが「こんな団体があるよ」と紹介してつなぐ役割がなければ、参加だけで終わってしまう。そのために、まちコがいろいろな団体について、どんな団体があるか勉強する機会があると活躍の場が増えるのではないか。

部会長：コーディネーターのネットワーク化について、まちコがどのような役割を果たすか。地区と地区をつなげたり、市内の団体の情報を把握して、どんな可能性があるかまちコ自身が考えたり、話をしたりする場は一層大事になる。コーディネーターのネットワークの“コーディネーター”となるべく、ネットワークをつくりだす力をまちコに育ててほしい。つなぎの学び舎の継続研修のような形も考える必要がある。

3 その他（会議開催日程）

- ・第3回 令和4年3月16日（水）13時30分～、401・402会議室にて実施する。
対面の開催を前提とするが、コロナの状況をふまえオンラインも含めて開催方法を検討する。

以上